

2024（令和 6）年度 自己点検・評価書

2025 年 3 月

佐賀大学
保健管理センター

2024(令和6)年度の保健管理センターの業務について総括し、活動報告および自己点検・評価を行う。

I 日常業務に関する状況と自己評価

保健管理センターは、佐賀大学の保健管理に関する専門的業務を行うことを目的として設置されている(佐賀大学保健管理センター規則第3条)。業務内容は下記の通りである。

- (1) 保健管理計画の企画・立案
- (2) 定期及び臨時の健康診断
- (3) 健康相談及び救急措置説明
- (4) 健康診断の事後措置、その他健康の保持増進に関する必要な指導
- (5) 学内の環境衛生及び感染症予防に関する指導・援助
- (6) 保健管理充実向上のための調査研究
- (7) その他保健管理に関し、必要な専門的業務

従来の健康診断を中心とする業務に加え、コロナ禍以降は、感染症対策も含め、危機対応など新たな業務が加わってきている状況である。新型コロナウイルス感染症は2023年5月に感染症法上の2類から5類に変更となり、インフルエンザと同等の対応を行うこととなったが、以降も他の感染症も含め対応を行っている。

学生支援の面では、発達障害等の障害を持ち合理的配慮を必要とする学生が年々増加しており、ウェルビーイング創造センター学修支援部門(2024年4月より組織再編に伴い学生支援室から名称変更)と協力して支援に当たっている。また、教職員の支援に関しても、産業医としてストレスチェックによる高ストレス者および要配慮者の面談や復職支援、就労支援等のサポートを行うケースが増えてきている。

学生の健康管理実施状況

本庄地区では、健康診断として、定期健康診断(新入生、在学生、留学生)、スポーツ健康診断、RI・じん肺・特定化学物質健康診断、感染症対策、メンタルヘルスとして、通常カウンセリングおよびスクリーニング、その他として、禁煙サポート、肥満・やせ学生への対応、保健指導・救護、健康診断証明書発行などの業務を行っている。

鍋島地区では、健康診断として、在学生、大学院生の定期健康診断、RI健康診断、感染症対策として、小児感染症対策(新入生)、B型肝炎ワクチン接種、インフルエンザワクチン接種、メンタルヘルスとして、カウンセリング、スクリーニング面談、その他として保健指導・救護、健康診断証明書発行などの業務を行っている。

＜本庄キャンパス＞

1. 定期健康診断

4月の11日間の日程で、全学生を対象に従来通りの形で健康診断を実施した。2020年度から予約システムを運用しており、混雑はなく円滑に実施できている。

健診対象者は5,822名、受診者は3,739名で受診率は64.2%だった。学部毎の受診率は、教育学部91.4%、芸術地域デザイン学部60.7%、経済学部60.6%、理工学部58.9%、農学部69.7%で、学部による受診率の差を認めた。学部新入生の受診率は昨年より上昇し、88.1%であった。その他の学年別の受診率は、2年生51.9%、3年生59.4%、4年生57.7%で、在学生の受診率の低さが目立った。大学院生の受診率は、70.5%だった。受診についてHP、メール、SNSでの周知のほか、教員を通じて各学部学生への連絡・再周知を行ったが、コロナ禍以前の80%程度と比較し、かなり低い受診率のまま低迷している。

2. 健康診断結果(各検査所見)

既往歴では、アレルギー疾患、循環器疾患、精神疾患、婦人科疾患、消化器疾患などが多く見られた。やせ(BMI 18未満)は296名、肥満(BMI 30以上)は68名に見られた。胸部X線は要精密となった者が9名であった。血圧は77名が有所見者(高血圧、低血圧)で、再検査、自宅血圧の測定などでも異常が見られる学生については専門医に紹介を行った。検尿異常(尿蛋白、潜血)は202名あり、再検査でも異常が続く者については、腎臓内科、泌尿器科等に紹介した。心電図検査は23名に実施し、うち6名で比較的軽度の所見を認め経過観察を行っている。

3. 留学生健康診断

留学生健診は、2020年度から健診項目を日本人学生と統一し、4月と10月(後期入学者)に実施している。受診率は前学期の健診対象学生242名中受診者138名(57.0%)、後学期の対象学生72名中受診者40名(55.6%)、総計314名中178名(56.7%)だった。留学生数は前年

度、前々年度より引き続き増加した。健康診断結果で有所見となった者は胸部 X 線 2 名、血圧 5 名、検尿 15 名で、それぞれ再検査や医療機関への紹介などの対応を行った。

4. メンタルヘルス対策

4-1 健康調査(メンタルスクリーニング)

心理面のスクリーニングを行うために、定期健康診断時に全学生(留学生を除く)へ「学生生活質問票」(CMHQ: College Mental Health Questionnaire を改編)を配布し、調査を実施した。①総得点が 30 点以上(1~4 点の 4 件法、12 項目、総得点は 12~48 点)、②「ふと自分がこの世にいないかと考えてしまう」という希死念慮の設問項目で 3 点(「かなりの間」)以上だった学生、③メンタルクリニック等で治療中の学生、④相談希望の学生、⑤問診時、不安や不眠などの聴き取り内容ありの学生を要面接者として呼び出しを行った。学内での相談利用があると回答した学生については、体調や相談の状況などの確認を行った。結果は以下の通り。

新入生:要面接者は 28 名であった。うち 28 名(100%)に面接を実施した。面接の結果、14 名に所見があり、内訳は、発達障害(疑い含む)5 名、神経症(不安状態など)4 名、気分障害 2 名、睡眠障害 2 名、精神病状態 1 名だった。

2 年生:要面接者は 11 名であった。9 名に面接を実施した。2 名が有所見で、内訳は睡眠障害 1 名、その他 1 名だった。

3 年生:要面接者は 22 名であった。うち 20 名に面接を実施した。3 名が有所見で、神経症 2 名、発達障害(疑いを含む)が 1 名だった。

4 年生:要面接者は 32 名であった。30 名に面接を実施した。有所見者は 14 名で、内訳は、気分障害 6 名、神経症 3 名、睡眠障害 2 名、自殺の危険(自傷行為含む)2 名、発達障害(疑い含む)1 名だった。

大学院生:要面接者は 19 名であった。うち 10 名に面接を実施した。気分障害、神経症などの状態が 6 名に認められた。

全体として、106 名に面接を行い(面接率 94.6%)、とくに問題がないと判断された学生は 36 名(34.0%)で昨年より増加していた。精神診断(状態を含む)が可能とされた学生は 82 名(77.4%)で、神経症(不安状態など)、気分障害(うつ状態、躁状態など)、発達障害(疑い含む)が比較的多く見られた。すでに学内(保健管理センター、学生支援室、キャンパスソーシャルワーカー)、学外の医療機関のフォローにつながっている学生が多く、新たにカウンセリングにつながる学生も 19 名(22.4%)あり、昨年と人数はあまり変わらなかった。

健診当日に面談予約を行うことで、面接実施率は 94.6%と良好だった。健診の受診率は低迷しているが、要面接者は、昨年度に比べ増加した(85→112 人)。相談希望ありの学生は、16 名だった。今年度は、気分障害と神経症(不安状態など)と考えられる学生は同等程度見られた。希死念慮関連項目でスクリーニングされる学生は 35 名と多いが、実際に自殺の危険があると判断された学生は少数であり、面接時には自己解決しているケースも多くみられた。例年の傾向として、学年別に比較すると要面接者は 2 年生に少ない。1 年生は入学時の不安、3 年生は研究室配属や実習によるストレス、4 年生は就職活動や卒業研究への不安が影響しているように思われた。

4-2 カウンセリング状況

本庄地区では、常勤の中島カウンセラーと非常勤の学生カウンセラー3 名(学生支援室と兼任)および医師、保健師が保健管理センターでカウンセリングを行っている。カウンセリングを受けた学生数は 187 名、延べ面談数は 647 回で、いずれも増加している。外部医療機関(精神科等)へ紹介したケースが 10 件あった。相談内容の内訳は、精神衛生が 107 名と多く、次いで対人 29 名、身体健康 12 名、進路 9 名、学業 9 名の順に多かった。

4-3 障害学生(留学生を除く)

本年度の保健管理センターが把握している障害学生数は 247 名(うち本庄 223 名)、何らかの修学支援を行っている学生は 133 名(本庄 111 名)、障害手帳等取得者は 1 名であった。前年度と比較して障害学生数は、2 名減(本庄 31 名増)だった。病弱・虚弱、精神障害、発達障害、視覚・聴覚・言語の障害、肢体不自由などの障害を持つ学生が在籍しており、学生支援室集中支援部門と連携して支援ニーズの把握や修学支援、身体・健康面のサポート等を行っている。

5. 感染症対策

(1) 各種感染症罹患学生への対応

現在、佐賀大学ホームページに掲載されている「感染症罹患報告フォーム」により、各種感染症罹患の学生を把握・確認している。感染症の種類に応じて、保健管理センターから電話等で本人へ体調確認を行い、必要に応じて関係者(教務課、指導教員等)への情報共有を行っている。

(2) HPV ワクチン(子宮頸がんワクチン)接種

副作用の報道等の影響で、2013 年 6 月から積極的な接種勧奨が差し控えられていたが、専門家の評価を経て、2022 年 4 月から接種勧奨が再開された。接種率の低い 1997～2007 年度生まれの女性に対し、2024 年度末までの無料のキャッチアップ接種が行われた。

大学生は、このキャッチアップ世代に相当するため、佐賀大学医学部附属病院（以下、附属病院）外来で学生の接種を行うため、関係者間での協議（HPV 接種運営部会：感染制御部、産婦人科、医事課、看護部、学生課・学生生活課、保健管理センタースタッフ等のメンバーで構成）を 2024 年 2 月から開始した。2024 年 4 月より附属病院外来で、接種を希望する本学学生を対象に HPV ワクチン接種が予約制で開始された。

関係者協議と並行し、学長、病院長よりキャッチアップ接種に関する周知文「子宮頸がんワクチン（HPV ワクチン）接種について」が大学ホームページに掲載された。

保健管理センターでも、HPV ワクチン接種のチラシを作成し、4 月の学生定期健康診断の際に女子学生へ配布したほか、各学部への配布・掲示依頼し、対象者への啓蒙啓発を行った。また、併せてライブキャンパスメールやホームページでの周知も行った。

1 回目の接種への助成については 2025 年 3 月で終了しているが、2025 年 3 月末までに 1 回以上接種済みであれば公費による 2 回目・3 回目の接種が 2026 年 3 月末まで可能であるため、今後も引き続き、附属病院ワクチン外来やその他医療機関への紹介、HPV ワクチン接種に関する相談対応も継続して行っていく。

6. 健康診断証明書発行状況

自動発行機による健康診断証明書発行状況は、1,061 通であった。保健管理センターにおける発行件数（自動発行で対応できないもの）は、70 通であった。発行数が多いのは、発行開始直後の 6 月～7 月だった。発行の目的の多くは、就職用と結果通知用だった。

7. 保健管理センター利用状況（本庄地区）

保健管理センターの利用件数は 7,387 件（学生 4,026 件うち留学生 313 件・職員 3,361 件）であった。学生・教職員の体調不良時の診察や医療機関への紹介、外傷の応急処置、メンタルヘルスについての相談、健診の事後措置（血圧、検尿の再検査等）、保健指導など利用の内容は多岐に渡っている。医師 2 名、保健師 3 名（うち非常勤 1 名）の体制で対応している。

<鍋島キャンパス>

1. 定期健康診断

医学部健診対象者は 870 名、学部学生の受診者は 858 名で受診率は 98.6%だった。医学部新入生の受診率は 100%であった。医学部大学院生の受診率は、54.7%だった。学部学生は、各学年で実習があるため、受診率は高い。大学院生は社会人大学院生も多く、大学の学生健康診断を受診する学生が少ない状況は続いている。大学院担当部署と協力し、社会人大学生は、職場で受診した健康診断結果提出を提出するよう引き続き受診率向上に向けて、案内を行っていく。

2. 健康診断結果(各検査所見)

既往歴では、喘息などの呼吸器疾患、アレルギー疾患、循環器疾患、消化器疾患などが多く見られた。やせ(BMI 18 未満)は 67 名、肥満(BMI 30 以上)は 8 名に見られた。胸部レントゲン検査は要精密となった者が 1 名であった。血圧は 11 名が有所見者(高血圧、低血圧)で、再検査、自宅血圧の測定などでも異常が見られる学生については専門医に紹介を行った。検尿異常(尿蛋白)は 23 名あり、再検査でも異常が続く者については、腎臓内科に紹介を行った。心電図検査は 34 名に実施し、心雑音を含む 6 名が循環器内科受診した。

3. 感染症対策

感染症対策として、学生生活全般の感染症対策(授業における感染対策、病院実習についての症状確認・実習参加の可否確認、部活・サークル活動に関する注意喚起)を学生課と協力して行った。

1) 小児感染症(麻疹・風疹・水痘・ムンプス)

新入生の入学案内時に、小児感染症のワクチン接種を各 2 回接種行うよう案内している。入学から 5 月までに接種完了し、6 月からのアーリー実習の感染防止対策を行っている。提出していない学生に対しては、実習オリエンテーションを利用し繰り返し案内を行っている。

2) B 型肝炎ワクチン接種

インフルエンザワクチン接種は、新入生 159 名を対象に 9 月から開始し、2 月までに 3 回接種を行った。

3) インフルエンザワクチン接種

インフルエンザワクチン接種は 10 月に大学経費で医学科5年と看護学科3年の実習生 155 名に接種を行った。11 月に自己負担で、医学科 6 年と看護学科 4 年、大学院生 165 名にワクチン接種を行った。計 320 名にインフルエンザワクチン接種を行った。

4)HPV ワクチン接種

HPV ワクチン接種を希望する学生・職員には、保健管理センターで日程調整を行い、感染制御部・医事課と協力し対応した。49 名(学生 32 名 職員 17 名)が附属病院ワクチン外来(感染制御部)で接種をうけた。

5)新型コロナ感染症など

新型コロナ感染症については、平成 5 年 5 月 8 日から 5 類感染症になったが、附属病院内でのマスク着用や面会制限などの感染対策は継続されている。附属病院および関連施設実習の学生には、附属病院の感染対策を実践するようオリエンテーション時に周知を行った。特に実習学生については、感染報告時は、症状確認等十分に行い学生課と情報共有・協力し対応行っている。

4. メンタルヘルス対策

4-1 健康調査(メンタルスクリーニング)

新入生:入学時オリエンテーションで「学生生活質問票」(CMHQ:College Mental Health Questionnaire)配布し、心理面のスクリーニング調査を実施した。要面接対象は 26 名で、面談に来た新入生は 24 名(面接率 92.3%)であった。

留年生:留年生オリエンテーション時に、全員に封書で面談案内を行った。留年生 24 名中、面談に来た学生は 11 名(面談率 45.8%)だった。

医学科 2 年生:10 月 2 日～9 日に WEB にて CMHQ 調査を実施し、116 名の 74 名が回答。要面接対象となった学生が 21 名、うち 14 名に面接を行った(面接率 66.7%)。

医学科 4 年生:11 月 6 日～12 日に WEB にて CMHQ 調査を実施し、97 名の 79 名が回答。要面接対象となった学生が 15 名、うち 10 名に面接を行った(面接率 66.7%)。

スクリーニング面談の結果は、気分障害(うつ状態、そう状態など)が 8 名、睡眠障害 4 名、摂食障害が 2 名、発達障害の可能性が 2 名などであった。スクリーニング面談の結果継続カウンセリングとなった学生はいなかった。

4-2 カウンセリング状況

鍋島地区では、医師 1 名、常勤の臨床心理士 1 名がカウンセリングを行っている。看護職を含めたカウンセリングを受けた学生数は 55 名、延べ面談数は 178 回であった。専門の精神科医師の診察が必要と判断した場合は、佐賀大学附属病院精神神経科の学校医 2 名の協力を得て対応を行っている。佐賀大学医学部附属病院を含む外部医療機関（精神科等）へ新規に紹介したケースが 4 件、前年度からの継続が 3 件だった。相談内容の内訳は、精神衛生が 31 名と多く、次いで学生生活 10 名、対人 4 名の順だった。

令和6年度は、新入生の相談が9月に増加した。高校生活と大学生生活の違い・人間関係の構築や、医学部の学習方法について悩む学生の相談が多かった。また、講義中は問題とならないケースも、医学科5年、看護学科3年の実習開始後、個人の課題が浮き彫りになるケースもあり、対応が必要となるケースがあった。

4-3 障害学生

保健管理センター分室が把握している医学部障害学生数は 24 名。何らかの修学支援を行っている学生は 22 名、障害手帳等取得者は 1 名であった。病弱・虚弱、精神障害、発達障害の特性をもつ学生が在籍しており、担当チューター教員や学生課と連携して支援ニーズの把握を行っている。

5. 健康診断証明書発行状況

医学部では、健康診断証明書発行は、保健管理センター分室において実施している。医学部の健康診断血液検査結果もあるため、自動発行機で対応できない結果があるため、健康診断結果は全員手渡しで行っている。保健管理センターでの健康診断書発行件数は、304 通であった。医学部は健康診断証明書の発行と同等に、ワクチン接種などの免疫の記録の発行も多い。発行数が多いのは、国家試験説明会時に全員にワクチン接種の記録証明を発行しているため、10月に発行数が多く、次いで、医師・看護師・保健師の国家資格の免許申請のための健康診断証明書発行は、3月に多い。

6. 保健管理センター利用状況

保健管理センターの利用件数は 6366 件（学生 2845 件・職員 3521 件）であった。学生・教職員の体調不良時の診察や医療機関への紹介、外傷の応急処置、メンタルヘルスについての相談、ハラスメント相談、健診の事後措置（血圧、検尿の再検査等）、保健指導など利用の内容は多

岐に渡っている。今年度は、医師 1 名、臨床心理士 1 名、保健師 1 名、看護師 1 名の体制で対応している。

教職員の健康管理実施状況

<本庄地区>

1. 労働安全衛生活動状況

本庄地区では、安全衛生管理活動として、職場環境の整備（作業環境管理、職場の巡視、5S 活動、快適職場づくり）、マニュアル等の整備（安全衛生管理マニュアルの作成、SDS の整備）、健康保持増進対策（健康診断、有所見者に対する事後措置、メンタルヘルス対策、受動喫煙防止対策）、安全衛生教育（安全衛生教育、能力向上教育、衛生管理者等資格者の確保）等の活動を環境安全衛生管理室と連携して行っている。

2. 健康診断

雇入時健康診断、一般定期健康診断、特定業務従事者健康診断、他機関受診（人間ドック等）を合わせると、970 名が健康診断を受けていた。受診率は 100%だった。定期健康診断の要精密者は 246 名（41.1%）であったが、その内、精密検査を受診した者は 157 名（63.8%）であった。精密受診率は 6 割程度と前年より改善は見られるものの十分ではなく、精密検査が必要な方については医療機関を受診していただくよう引き続き受診勧奨を行っていく必要がある。雇入時健康診断、大腸がん検診の精密検査受診結果提出率は、それぞれ、79.4%、83.3%だった。胃検診の受診者は 68 名だったが、要精密者はなかった。

3. 感染症対策

2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症は感染症法上 2 類から 5 類へ変更となり、インフルエンザ等と同等の対応を行うこととなった。本学においても、感染症法に基づいた取り扱いを行っている。体調不良者や罹患者からの問い合わせや相談への対応は継続して実施した。インフルエンザ予防接種は、附属病院を有する鍋島キャンパスでは従来継続して実施されていたが、本庄キャンパス職員の希望者へも保健管理センターで 2020 年度よりインフルエンザ予防接種を実施している。2024 度も、接種を希望する 565 名の職員に保健管理センターで接種を実施した。

4. メンタルヘルス対策

(1)健康調査(メンタルスクリーニング)状況

本庄地区では、全教職員を対象に7～8月に中央労働災害防止協会のヘルスアドバイスサービスを活用した「ストレスチェック」を行った。対象者850名中748名(回答率:88.0%)からの回答を得た。高ストレス者は60名(2023年度9.6%→2024年度8.0%)、要配慮者は3項目9名、2項目27名だった。7名に産業医・産業カウンセラーによる面接を実施し、4名は継続カウンセリングとなった。

また、新規採用者・異動者等を対象にメンタル面のスクリーニングのための面談を行っている。新しい環境への適応に問題がないかを確認するため「疲労蓄積度チェックリスト」などを用いて心身の健康の確認を行っている。本年度は107名(100%)の面接を実施し、うち6名は継続カウンセリングとなった。

(2)カウンセリング実施状況

カウンセリング体制は、産業医2名、産業カウンセラー(非常勤)1名、保健師3名である。相談の実数は104名、延べ数は273件であった。8名を医療機関に紹介した。相談内容の内訳は、精神衛生(精神的不調に関わるもの)が多く、次いで仕事、人間関係であった。

5. 復職支援実施状況

病気(メンタルヘルスの不調者を含む)やけがなどが原因で心身の健康を害し、休職している(休職しようとする者を含む)教職員に、段階(0～4段階)ごとに産業医が中心となり復職支援を実施している。それぞれの段階とは、第0段階(発症時の支援)、第1段階(療養開始・療養中の支援)、第2段階(職場復帰準備期の支援 例:仮出勤)、第3段階(職場復帰時の支援)、第4段階(職場復帰後の支援 例:慣らし出勤)である。

本年度の復職支援対象者は、メンタル14名で、延べ面接回数は63回だった。とくに仮出勤中は体調の変動が起きやすいことから、昨年度からは原則的に週1回産業医面談による体調確認を行うようにし、不調時には早めの対応(以降の仮出勤プログラムの修正等)が行えるようにした。7名の職員に復職支援プログラムによる復職のサポートを行った。復職判定会議を7件実施し、メンタル疾患で休職していた職員7名が復職した。復職後のサポートのための面談も慣らし出勤期間中に適宜実施し、復職後の体調管理、職場への順応がスムーズに行われているかをフォローアップしている。

6. 労働災害報告

本年度の労災発生は計 8 件だった。発生状況、再発防止への取り組みについては毎月の本庄地区安全衛生委員会で環境安全衛生管理室より報告されている。

7. 長時間労働に対する産業医面談

月の勤務時間が標準時間から 80 時間を超えた者、もしくは 60 時間以上が 2 ヶ月続いた者に対して産業医面談を行い、健康状態の確認や管理監督者への勧告を行うこととしている。毎月人事課より長時間労働者についての報告を受け、産業医が確認を行っている。本年度は 11 名の面談を実施した。高ストレス面談時には、時間外労働の状況についても確認を行い、体調面で懸念がある者についてはガイドラインに基づき報告書による人事課および所属部署へのフィードバックを行っている。

<鍋島地区>

1. 労働安全衛生活動状況

鍋島地区では、鍋島地区安全衛生活動計画に基づき、毎月 1 回の職場巡視及び安全衛生委員会を開催している。作業環境管理(作業環境測定等)・作業管理(薬品管理システム CRIS 利用講習会・リスクアセスメント講習会・衛生管理担当者説明会の開催等)・健康管理(健康診断、感染症対策、メンタルヘルス対策、復職支援、喫煙対策、過重労働対策等)については、鍋島事業場産業医 1 名、附属病院事業場産業医 1 名、総務課、専任衛生管理者、衛生管理者等と連携し活動を行っている。

2. 健康診断

職員健診は、医学部附属病院での定期健康診断の 100% 受診を労基署より指導をされている。附属病院 1145 名、鍋島事業場 313 名と定期健康診断受診率は 100% であった。

雇入時健康診断については、佐賀中部保健福祉事務所の立入検査により、採用後概ね 1 か月以内に実施するよう指導があつているため、異動が多い附属病院職員においては対応が困難ではあるが委託契約している近医での受診を案内し、附属病院 215 名、鍋島事業場 45 名と、おおむね 1 か月以内に実施している。

電離放射線健康診断 858 名、有機溶剤健康診断 131 名、特定化学物質健康診断 27 名と 100% 受診となっている。

精密検査については例年並みの受診率となっている。引き続き文書やメール、電話等で精密検査の勧奨を行っていく必要がある。

希望者に各種がん検診を行った。前立腺がん検診 66 名、胃がん検診 64 名、大腸がん検診 143 名、乳がん検診 142 名、子宮がん検診 159 名に実施した。精密検査の結果、治療を要す職員が 3 名いた。8 年目となる歯科検診は 82 名の受検があった。

3. 感染症対策

職員の感染症対策については、専任衛生管理者・附属病院感染制御部と協力し企画・実施した。

小児感染症 4 項目（ムンプス・麻疹・風疹・水痘）については、医療従事者の有資格職員については雇入時までに 4 種のワクチンについて各々 2 回接種をお願いしている。接種証明書や母子手帳写し等を提出していただき確認を行っている。資格を有しない非常勤職員に対しては、のべ 33 名にワクチン接種を行った。

B 型肝炎対策として、健康診断時に 147 名の抗体検査を実施し、のべ 91 名にワクチン接種を行った。ワクチン接種後の免疫獲得率は 95.7%となっている。

インフルエンザについては、全職員及び関係業者を対象に 1750 名にワクチン接種を行った。新型コロナウイルス感染症については、希望者 37 名（自己負担 12,000 円）にワクチン接種した。

4. メンタルヘルス対策

全職員を対象に、定期健康診断時に職業性ストレスチェックを行った。鍋島地区では職員のメンタルヘルス対策として平成 23 年度から継続実施している。1697 名（回答率 97.5%）が回答した。要配慮者が 404 名（23.8%）、高ストレス者が 150 名（8.8%）だった。産業カウンセラーによる面接が 67 名、高ストレス者の産業医面接指導は 3 名実施された。なお結果については、安全衛生委員会及びメンタルヘルス対策部会、衛生管理担当者説明会等で産業医より報告を行った。

新規採用者・異動者及び昇任者を対象とし、産業カウンセラーによるスクリーニング面接を 237 名に実施した。看護部からの依頼により新人看護師には年 2 回の面接を実施している。

個別カウンセリングは、仕事や精神衛生に関する相談が多く、3 名は産業医又は外部の医療機関へ紹介となった。

年に 2 回、メンタルヘルス対策部会を開催しておりカウンセラーと産業医や事務部門、看護部、過半数代表者などの関係者との情報交換及び共有を行い、連携強化を図っている。

5. 復職支援対策

復職支援として、休職となった職員 17 名にのべ 64 回の産業医面談を行った。復職支援プログラムによる仮出勤から復職判定会議を経ての復職、及び復職後においても支援を行った。メンタルでの休職者のうち 6 名の職員が復職支援プログラム後に復職した。

6. 過重労働対策

月の勤務時間が標準時間から 80 時間を超えた者、もしくは 45 時間以上が 3 か月続いた者で申し出のあった職員を対象に、1 名の産業医面談を実施した。

今年度から施行の「医師の働き方改革」については、医師労務管理室が担当し、産業医及び面接指導実施医師 17 名において、のべ医師 83 名に面接指導が行われた。なお、2025(令和 7)年度からは、面接指導は外注化されているが、必要時は産業医が対応する予定である。

Ⅱ 教育に関する状況と自己評価

保健管理センターの教員 3 名はそれぞれ大学の講義を担当し、学外では佐賀県医療センター好生館看護学院、県内の高校などでの講義・講演も依頼を受け行っている。また、学生や教職員向けの健康教育やミニレクチャーなども適宜実施している。以下に実績を示す。

1. 講義

木道(学内):

健康科学 A・後期 全 15 回 全学部全学年対象 100 名

学内(坂本):

循環器ユニット 4 画像診断 CT 2024.10.03 医学部医学科 3 年 103 名

循環器ユニット 4 症候学浮腫 2024.10.07 医学部医学科 3 年 103 名

病棟実習:循環器内科心電図・心エコー 2024.03.25-10.11 医学部医学科 5 年 96 名

(実習 13 グループを 2 班に分け 各 1 時間心エコー指導実施 計 26 時間)

木道(学外):

呼吸・循環器系病態論 循環器内科 佐賀県医療センター好生館看護学院 看護科 1 年 40 名

1) 心不全 2024 年 10 月 7 日

2) 虚血性心疾患 2024 年 10 月 28 日

3)不整脈 2024 年 11 月 25 日

2. 大学院生等指導

坂本:医学・看護学概論 健康科学の Topics 2024.06.03 大学院生 67 名

Ⅲ 研究に関する状況と自己評価

保健管理センターは学生・教職員の健康管理が主な業務であるが、保健管理業務に関する研究報告、学会発表等は着実にを行い、毎年一定以上の成果を出している。九州地区大学保健管理研究協議会(Web 開催)、全国大学保健管理研究協議会などの大学の保健管理に関する学会や各自の専門領域の学会に積極的に参加し、研鑽に努めている。本年度は九州地区大学保健管理研究協議会の当番大学として、協議会を主催した。科研費への応募も継続して行っており、採択もされている。以下に研究報告、学会発表等の内容を提示する。

研究報告

〔学会発表〕

1. 佐賀大学における学生相談の分析と今後の課題 嘉松美穂、緒方よしみ、小川康子、安田郁、古川早苗、武富弥栄子、坂本佳子、荒木薫、木道圭子 令和6年度第54回九州地区大学保健管理研究協議会 2024 年 7 月 8 日～26 日 Web 開催
2. 佐賀大学教職員における 10 年間の喫煙率の推移と禁煙対策 小川康子、緒方よしみ、嘉松美穂、安田郁、古川早苗、武富弥栄子、坂本佳子、荒木薫、木道圭子 第 62 回全国大学保健管理研究集会 2024 年 10 月 16 日 神戸国際会議場
3. COVID-19 流行期における大学生の感染予防対策の励行状況 荒木薫、木道圭子、原めぐみ 第 62 回全国大学保健管理研究集会 2024 年 10 月 16 日 神戸国際会議場
4. Psychological determinants of HPV vaccine hesitancy among females of catch-up generations in Japan : Internet survey Kaoru Araki, Megumi Hara International Society for Vaccines 2024 ISV ANNUAL CONGRESS 2024.10.21-23 Seoul, Korea

5. 高大連携による女子の理系進路支援―継続・育成型 STEAM ガールズ in SAGA―
荒木薫 令和 6 年度全国入学者選抜研究連絡協議会(第 19 回) 令和 6 年 5 月
25 日 オンライン開催
6. TAVR 前後の左室駆出率と左室 GLS の変化について. 坂本佳子、吉岡 吾郎、鍋
嶋 洋裕、本郷 玄、秋吉 妙美、梅木 俊晴、小屋松 純司、柚木 純二、野出 孝
一. 日本心エコー図学会第 35 回学術集会 2024.04.19-04.21 姫路市.
7. TAVR 後慢性期の僧帽弁閉鎖不全症が予後に与える影響. 吉岡吾郎、坂本 佳
子、小屋松 純司、梅木 俊晴、鍋嶋 洋裕、本郷 玄、柚木 純二、野出 孝一 日
本心エコー図学会第 35 回学術集会 2024.04.19-04.21 姫路市.
8. disproportionate left atrial myopathy を伴う経カテーテル的大動脈弁置換術症例の
臨床的特徴. 鍋嶋 洋裕、坂本 佳子、吉岡 吾郎、本郷 玄、梅木 俊晴、小屋松
純司、柚木 純二、野出 孝一. 日本心エコー図学会第 35 回学術集会
2024.04.19-04.21 姫路市.
9. 経皮的僧帽弁接合不全修復術後に僧帽弁狭窄を生じ治療に難渋した一例. 平井
元子、坂井 ひかり、鍋嶋 洋裕、吉岡 吾郎、森永 崇、坂本 佳子、梅木 俊晴、柚
木 純二、野出 孝一. 日本超音波医学会第 34 回九州地方会学術集会
2024.09.16 福岡市.

[論文]

1. 佐賀大学における学生相談の分析と今後の課題 嘉松美穂、緒方よしみ、小川康
子、安田郁、古川早苗、武富弥栄子、坂本佳子、荒木薫、木道圭子 令和6年度第
54 回九州地区大学保健管理研究協議会報告書 93-96, 2024 No.54 2025 年 1 月
発行
2. COVID-19 流行期における大学生の感染予防対策の励行状況 荒木薫、木道圭
子、原めぐみ CAMPUS HEALTH 2025.3 62(1) 107-108 第 62 回全国大学保健管理
研究集会(神戸大学)報告書
3. 佐賀大学教職員における 10 年間の喫煙率の推移と禁煙対策 小川康子、緒方よ
しみ、嘉松美穂、安田郁、古川早苗、武富弥栄子、坂本佳子、荒木薫、木道圭子
CAMPUS HEALTH 2025.3 62(1) 246-247 第 62 回全国大学保健管理研究集会(神
戸大学)報告書

4. 文理選択・大学選択に教師・保護者が与える影響に関する研究 浦郷淳(長崎国際大学)、荒木薫 長崎国際大学教育基盤センター紀要第 8 巻 1～10 頁、2025 年 3 月
5. 経カテーテル的大動脈弁置換術後の無症候性人工弁血栓症について 多列検出器型 CT と経胸壁心エコー図検査による評価. 坂本佳子、園田信成、鍋嶋洋裕、本郷玄、吉岡吾郎、陳文瀚、秋吉妙美、梅木俊晴、柚木純二、蒲原啓司、野出孝一. 日本臨床生理学会雑誌. 54(3):125-134. 2024.【第 29 回日本臨床生理学会優秀論文賞(令和 6 年度)】
6. 子宮腺筋症が原因と考えられる非細菌性血栓性心内膜炎を発症した 1 例. 小屋松純司、坂本 佳子、梅木 俊晴、石隈 麻邪、山本 徒子、津村 圭亮、於保 恵、大枝 敏、末岡榮三朗. 超音波検査技術. 2024 Dec;50(1) doi:10.11272/jss.437.
7. Impact of left atrial strain on clinical outcomes in patients with permanent pacemaker implantation. Yoshioka G, Yamaguchi T, Tanaka A, Sakai H, Koyamatsu J, Umeki T, Kaneta K, Sakamoto Y, Kawaguchi A, Node K. ESC Heart Fail. 2024 Dec;11(6):3982-3992. doi: 10.1002/ehf2.14973. Epub 2024 Jul 29.
8. FIB-4 Index and Liver Stiffness Measurement are Potential Predictors of Atherosclerosis in Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease. J Kubotsu Y, Sakamoto Y, Tago M, Chihara A, Norita M, Inadomi C, Inoue K, Takayanagi H, Tanaka K, Isoda H, Kuwashiro T, Oeda S, Shiratori T, Anzai K, Node K, Takahashi H. Atheroscler Thromb. 2025 Feb 1;32(2):239-252. doi: 10.5551/jat.64809. Epub 2024 Sep 4.

[論文査読]

木道: CAMPUS HEALTH 61(2) 2024 年 11 月 発刊予定 全国大学保健管理協会 2024 年 3 月

坂本: 日本心エコー図学会査読委員. 2025.01.31

科学研究費補助金など

1. 荒木: 令和 6 年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム「継続・育成型 STEAM ガールズコンソーシアム」(211.6 万円)
2. 荒木: TSUNAGI プロジェクト「佐賀県内高校生の将来展望実態調査」

IV 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

保健管理センターでは、大学、自治体、地域の方々などから講演等を依頼されることも比較的多くあり、時間の許す範囲で健康に関する講演を行うなど社会連携・貢献に努めている。県の審議会、委員会、関連学会等の委員となり活動に協力している。留学生の健康面の支援、留学する日本人学生の留学前後の健康面の支援なども佐賀大学の国際交流活動の一助になっていると考える。以下に 2024 年度に行った講演等について示す。

〔講演〕

1. 木道圭子:「メンタルヘルスについて」令和 6 年度佐賀大学新採用職員(事務職員・技術職員)研修 2024 年 4 月 18 日 佐賀大学図書館4階会議室
2. 木道圭子:「健康管理について」 令和 6 年度佐賀大学副課長級研修 2024 年 7 月 23 日 理工学部 6 号館 DC 棟 2 階多目的セミナー室
3. 嘉松美穂、木道圭子:「怪我や急病時の対応について」令和 6 年度課外活動団体セミナー 2025 年 2 月 15 日 教養教育大講義室
4. 荒木薫:「ダイバーシティと共生社会(障害者の人権と合理的配慮)」令和 6 年度市町等人権相談窓口担当者研修会 2024 年 6 月 17 日 佐賀県庁 11 階大会議室
5. 荒木薫:「医療現場の特性とダイバーシティマネジメント」 第 41 回佐賀地区看護師卒後研修会 2024 年 7 月 13 日 佐賀市医師会立看護学校3階講堂
6. 坂本佳子:医学部安全衛生管理体制の現状「産業医の活動について」. 衛生管理担当者説明会. 2024.07.29. 佐賀大学医学部臨床小講堂.
7. 坂本佳子:2024 年度職業性ストレス簡易調査の報告. メンタルヘルス対策部会. 2024.10.09. 佐賀大学医学部管理棟 2 階会議室.
8. 坂本佳子:医学部安全衛生管理体制の現状「2024 年度の健康診断の結果について」. 衛生管理担当者説明会. 2025.03.11. 佐賀大学医学部臨床小講堂.
9. 坂本:【主催】第 2 回佐賀超音波画像診断研究会. 講演 1 鍋嶋洋裕先生「佐賀大学エコー室の取り組み～より良い検査を目指して～」.講演 2 岩瀧麻衣先生「心エコーの基本から研究について ～2D エコー・3D エコーを用いて～」2024.11.16.佐賀大学医学部附属病院立体駐車場付帯施設 2 階.

10. 坂本佳子:優秀論文賞受賞講演. 経カテーテル的大動脈弁置換術後の無症候性人工弁血栓症について 多列検出器型 CT と経胸壁心エコー図検査による評価.

第 61 回日本臨床生理学会総会. 2024.11.15. 東京都.

〔自治体・学外の団体の委員会等〕

木道:全国大学保健管理協会評議員、全国大学保健管理協会九州地方部会幹事

荒木:佐賀県教育委員会委員

坂本:日本超音波医学九州地方会運営委員、日本心エコー図学会代議員、佐賀超音波画像診断研究会世話人.

V 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

保健管理センターの組織運営については、保健管理センター運営委員会で審議、報告を行い運営しており、今年度も通常の業務について、遅滞や問題、事故等もなく円滑に業務は遂行できたものとする。運営委員会では、健診を中心とする保健管理業務の企画立案、健康診断の結果の報告、健診データの解析結果の提示、健康調査の結果報告などを行っている。

佐賀大学の学内の各種委員会にも積極的に参加し、保健管理センターとして専門的見地から意見を述べ委員会運営に貢献している。また産業医として佐賀大学の労働安全衛生業務に従事している。また、保健管理センターでは、災害や事故、感染症の発生などに備え危機管理マニュアルを策定している。

各教員が担当している学内の委員会委員等を下記に示す。

委員等(木道):

保健管理センター運営委員会(委員長)、本庄地区安全衛生委員会(委員、産業医)、安全衛生管理委員会委員、本庄地区産業医、入学試験委員会委員、学生委員会委員、教育委員会(オブザーバー)、教育室会議委員、施設マネジメント委員会委員、病原体等安全管理委員会委員、放射性同位元素等安全管理委員会、本庄地区放射線障害予防委員会委員、新型インフルエンザ

対策委員会委員、化学物質管理委員会委員、学生支援室・健康支援部門(部門長)、集中支援部門(協力教員)→ウェルビーイング創造センター運営委員会委員、ダイバーシティ推進室員

委員等(荒木):

保健管理センター運営委員会委員、アドミッションセンター広報・高大接続等専門委員会委員、ダイバーシティ推進室運営委員(副室長)、広報室員、ハラスメント相談員

委員等(坂本):

保健管理センター運営委員会(委員)、鍋島事業場産業医、鍋島事業場メンタルヘルス対策部(部会長)、医師労務管理(副室長)、医学部教育委員会(オブザーバー)、鍋島地区放射線障害予防委員会委員、HPV 接種運営部会、ハラスメント相談員

VI 改善すべき点

本年度の健診対象者は 6,378 名、受診者は 4,419 名で受診率は 69.3%だった。学部毎の受診率は、教育学部 91.4%、芸術地域デザイン学部 60.7%、経済学部 60.6%、理工学部 58.9%、農学部 69.7%、医学部 98.6%で、学部による受診率の差を認めた。新入生全体の受診率は昨年より上昇し、88.1%であった。その他の学年別の受診率は、2 年生 51.9%、3 年生 59.4%、4 年生 57.7%で、在学生の受診率の低さが目立った。大学院生(本庄)の受診率は、70.5%だった。2019 年～2020 年度のコロナ禍の健診で「全員が受診する」という原則が崩れて、受診率が低下したため、2021 年度以降は、全員受診について HP、メール、SNS での周知および大学運営連絡会等を通して各学部への連絡・再周知を行った。その結果、健診受診率はわずかに上昇しているが、コロナ禍以前の 80%程度と比較し、かなり低い受診率のまま低迷している。とくに学部生の受診率の低下が顕著であり、本来の心身の健康のスクリーニングの役割を十分果たせていない恐れがある。他大学においても、医療系、教育学部など実習を伴う学部以外の健診受診率の低さは全国的な傾向として見られる。

健康診断は、健康状態の把握とともに疾病や障害等の修学支援のニーズの把握やメンタルヘルススクリーニングの役割も持っている。学生の心身の健康、修学の支援につながる直接の情報を得る場であることから、より多くの学生に定期健康診断を受診してもらうようにすることが重要であると考えます。

健診の必要性、感染対策を行い予約システムで混雑なく安心して受診できること、健診の時期や場所、健康診断証明書を無料で発行できる、メンタルヘルスのスクリーニングも行っていること

などのメリットなどについてのわかりやすい周知、何らかのインセンティブ（生協で使えるポイントでの還元など）の提示、ボランティアのような認証制度、予約外での受診を制限付きで受け入れるなどの方策について検討を行っている。また、日程については、学部毎に受診しやすい日程の設定について事前に相談を行う予定としている。